

平成11年度第2回愛知県周産期医療協議会
議 事 要 録

日時：平成11年10月22日 午後3時から午後5時まで

場所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：加納委員、有吉委員、安藤委員、岡田委員、小田委員、森川委員、風戸委員、
小池委員、小山委員、田邊委員、戸苅委員、長屋委員、奈倉委員、野口委員、
判治委員、松澤委員、森田委員

欠席者：

事務局：愛知県衛生部保健予防課長 名古屋市衛生局保健医療部保健予防課長
名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長、同病院第二小児科部長

司会者：名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長

議長：加納会長

1. 長嶋技監挨拶

2. 議事

(1) 愛知県周産期医療情報システムの拡充について

< ホ - ムペ - ジの内容の充実 >

* ホ - ムペ - ジ内容説明

現在あるのは、システムの体系図、リンク集（周産期センタ - 内のホ - ムペ - ジを持っている所へのリンク）、応需情報、会議室、関係者一覧です。

* 医療情報システム小委員会に於て、トップペ - ジの変更希望がありましたので、写真を挿入する、カウンタ - メニュー - を分かりやすくする、新着情報（更新状況の把握）、お知らせ（研修会、講演会等）を載せる。

* お知らせのペ - ジは、ワ - プロ感覚で入力（登録）出来るようにします。

* 周産期医療について、一般的事項は愛知県のホ - ムペ - ジに掲載出来れば、愛知県のホ - ムペ - ジにリンク出来るようにしたい。

当センタ - のホ - ムペ - ジは専門的事項に掲載したい。（必要あれば、一般的事項も掲載する）

* 医療協議会活動の広報ペ - ジを作成し、委員名簿、議事要旨、研修会、講演会、研究事業の報告（公開出来るものは一般に公開する）、専門相談、小セミナー、その他（搬送連絡書について）等に掲載する。

* 母子医療センタ - のお知らせ（9施設それぞれのホ - ムペ - ジ）。

（病院の概要についてはホ - ムペ - ジにリンク）

* 各種統計情報（産科搬送・相談件数等）を、提供する。

* 他府県の周産期センタ - のリンク集作成。

* 一般的な、おすすめリンク集作成。

* 9施設のホ - ムペ - ジのデ - タは、それぞれの施設で更新する（医療協議会の事後承諾で行う）。

* 皆さんの意見を取り入れ委託業者に依頼してプログラムを作成する。

* 9施設がそれぞれ独自のホ - ムペ - ジを作成する。

母子医療センタ - の枠内で、産科、小児科のホ - ムペ - ジを作成する。

* ホ - ムペ - ジ開設が決定したら、第一報をメ - ルで連絡し、パンフレット等材料を委託業者に郵送してもらい作成し、以後の変更は各施設で作成する。（既にパソコンにホ - ムペ - ジ修正ソフトが入力されている）

* 各施設にホ - ムペ - ジ作成のお知らせを出す。

< パスワ - ド必要な部分 >

* 調査・研究の報告

- * 9施設以外でも、応需情報を掲載したい申し出があります。
- * その他のセンタ - からの応需情報（医療協議会で承認されたもののみを掲載）（年3回の更新）。
- * 9施設以外でも、応需情報を掲載しアピールする事は必要ではないか。
- * 参加希望病院に関しては、委員会を作り検討する。（例えば：検討委員会）
- * 愛知県下各施設に応需情報参加アンケートを取り、選択基準を作成し協議会で決定し掲載する。
- * システム利用件数（イントラネット内）は、現在多数あります。今後、1年間更新していない施設に関しては検討する。

（2）専門相談事業の報告と今後の予定

- * 平成11年度の専門相談・小セミナー参加者数は、第1回 15名、第2回 20名（院外 4名）、第3回 20名（院外 3名）、第4回 15名（院外 1名）でした。
- * 平成11年度後半の予定は、10月26日、11月29日、平成12年1月26日、2月16日、3月4日です。（3月は特別相談としました）
- * 参加人数、成果について、これで良いか。
- * 年間10回開催予定になっている。
- * 事務局としては、毎回お知らせを出しています、産科医会のニュースにも出しています。
- * 年間10回ではなく、回数を減らしてはどうか。
- * 参加人数が少ないが、予算を有効に使用出来るように何か方法はないか。
- * 専門相談としているが、相談件数は非常に少ない。
- * 第一赤十字病院独自の行事と受け取られている面がある。
- * 産婦人科医会と合同で開催し、会場を名古屋第一赤十字病院以外の方が、多数の参加を望めるのではないか。
- * 電話、FAX、インタ - ネットの相談に応じることになっているが、相談件数は少ない。
- * 看護協会（看護婦・助産婦）の参加も考えるのであれば、もう少し相談内容、セミナーのテーマを考える必要がある。
- * 専門相談事業の現状を見直し、開催回数、開催方法、開催日時等の検討も必要ではないか。（厚生省主催の相談事業も参加人数は少ないようである）
- * 地域周産期センタ - がそれぞれ相談を行っているので、この相談事業で良いのではないか。
- * 各施設に対しては搬送依頼や搬送の可否相談で、専門家に対する相談とは少し異なる。
- * 各施設で持ち回り開催をしてはどうか。
- * 今年度は、この予定で開催し、平成12年度については、事務局で検討して下さい。
- * 資料2-2、2-3、2-4は、各施設の専門相談事業の集計結果です。（資料の未提出施設は、提出をお願いします）

（3）研修事業の報告と今後の予定

- * 平成11年度第一回研修会を、5月22日（題：平成10年調査・研究事業の報告）開催しました、65名の参加がありました。
- * 第二回目は、11月6日に大阪大学医学部産婦人科教授 村田雄二先生を講師に開催します。（題：アメリカの周産期医療 - 専門化と多専門的アプローチ）
- * 各施設（275施設）に出席の有無と講演会開催の案内を郵送しましたが、現在のところ100施設からの返送があり内出席は50名です。

（4）調査・研究事業の進捗状況

< テ - マ 1 母体搬送の実態調査 > （有吉委員）

- * 愛知県下の救急車の搬送事例で調査しています。
- * 搬送依頼、搬送収容施設、救急隊の人の要望、指摘等を受入れています。

< テ - マ 2 新生児搬送の実態調査 > （安藤委員）

- * 新生児搬送も、平成11年1月～6ヶ月間の救急車搬送を調査しています。
- * 搬送依頼先、搬送収容先、搬送の有無について（新生児は、搬送されない時もある為）、

収容先病院のデ - タ調査を行っています。

< デ - マ 3 胎児・新生児心疾患調査 > (松澤委員)

- * 別紙「研究計画」に基づき、分娩取り扱い施設(220施設)にアンケートを行います。
- * アンケートに基づき症例カードを作成するが、何例あるかは調査しないとはっきりしない。
- * 小児科医師の常勤している施設へアンケートを行います。
- * 周産期センターとして、早期発見、早期治療により初期の疾患をどれだけ救えるか(どの時点で搬送されたかを調べる必要がある)、貴重なデ - タになるので全施設が協力出来るような体制、状況を作る必要がある。

(5) 報告事項

- * 愛知県の人口動態統計(確定数)の概況報告
- * 愛知県に於ては全国平均に比べ良い結果がでている。
- * 別紙のように、母体集中治療管理室数(9床以上の確保が困難の為)について、改定された。
- * 人口の少ない県では遅れている。(指定施設なし)
- * 母子医療施設調査の結果と見直しについて、愛知県医療施設実態調査を第一次7月中旬に実施しました、第二次調査は10月20日提出で実施しています。
- * 母子医療の実態を把握するために、PIUC・NICU等のある病院に第二次調査を行っています。
- * 愛知県における母体死亡数は4~5例で、全国16位です。
- * 分娩での死亡は非常に少なく、合併症での死亡が多い。
- * 母子医療センターが設立されたことにより、どの施設からの搬送も受け入れることが出来るようになったことにより、より死亡例数が減少した。
- * 搬送には、医師の同行が必要ではないか。

(6) その他

- * 母体・新生児搬送連絡書(平成11年度第1回医療協議会にて決定)作成し、愛知県下施設に郵送し県下の統一を計っています。
- * 名古屋第一赤十字病院での、母体・新生児搬送連絡書の使用率は7月・8月・9月で60%でした。
- * 医療協議会活動も1年が過ぎましたが、各施設の協力もあり愛知県に於ては、良い成績を上げていると思われます。
- * 現場の開業医からみて、周産期センターが開設したことは大変良いと思われるが、これからも実際に建設的な実のあるものにしたい。
- * 色々な問題もあるが、今後も発展するように努力しましょう。

3. その他

次回の医療協議会は、平成12年3月24日(金)15:00~開催します。開催日は平成11年10月22日(金)